THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

Sow the Seeds of Love

Bhichai Rattakul
RI President, 2002-03

慈愛の種を
播きましょう

2002-2003年度 国際ロータリーのテーマ

職業奉仕米山月間

第７６１回　平成１４年１０月２３日（水）

〔本日のプログラム〕

1．点　鐘
2．ロータリーソング
　「手に手つないで」
3．「四つのテスト」唱和
4．食　事
5．会長の時間
6．幹事報告
7．委員会報告
8．クラブ創立記念
　プログラム
9．点　鐘

次回予告

★１０月３０日（水）
フォーラム
（米山月間にあたって）
情報集会（炉辺会合）

★１１月　６日（水）
11月セレモニー
理事・役員会

佐土原ロータリークラブ

例会日　毎週水曜日（12:30~13:30）
例会場　石崎浜荘　☎0985-73-1913
事務局　宮崎郡佐土原町大字下那珂3887-17
〒880-0212
TEL及びFAX　0985-73-7170

会長　宮原　建樹
副会長　林　厚雄
幹事　中武　幹雄
会計　佐藤　高元
会報委員長　池田　仁志

第７６０回例会記録
（２００２．１０．　９）

☆会長の時間
会長　　宮原建樹君

皆さん今日は。本日は第７６０回の例会です。

ビジターの紹介を致します。西都ロータリークラブの杉田賢逸君、そして米山奨学生の宋　仁徳君です。
ようこそ、お越しいただきました。

西都ロータリークラブでは今年度、米山奨学生の宋君をお世話されておりまして、近隣の２、３クラブを訪問して、研修報告をする、ということになっており、本日、当クラブを訪問していただきました。後ほど、杉田君より紹介のあと、研修の報告があると思います。

よろしくお願い致します。

先週の土曜日（５日）ライラが開催され、当クラブでは新世代委員長の藤堂君と研修生2 名で参加致しました。

新年度に入ってすぐの催しの割には研修生が多く（40数名）驚きました。
今日、藤堂委員長から報告していただくつもりでしたが、本人が都合で欠席しておりますので、次回にでも報告をお願いしようと思っております。

本日のプログラムは10月の職業奉仕米山月間によせて、フォーラム「職業奉仕月間にあたって」となっておりますが、米山奨学生の宋　君が20分位、報告のため時間を要しますので、その後、時間がありましたら、正岡職業奉仕委員長に担当していただきたいと思います。

☆幹事報告
幹事　中武　幹雄君

１．例会変更及び休会通知

①10月17日（木）は「早朝例会」のため、時間　6:00~
　　場所　神柱神社境内　に変更
都城中央ＲＣ

当クラブも次回（16日）は休会になります。

２．地区大会出席者名

吉田康一郎君	山脇　忍君
宮原　建樹君	林　厚雄君
岩下　廣美君	佐藤　高元君
垂水　敏雄君	近藤　章君
濱田松太郎君	岩切　正司君
後藤　明夫君	梶田與之助君
福井　輝文君	藤堂　孝一君
	中武　幹雄君

計　　１５名

10月9 日の花
トリトマ(別名 しゃくなゆり)
瓶を洗うブラシのような形で、下方から順に花が開くとまるでたいまつが燃えているように見えることから、トーチリリーという英名がつきました。

花言葉 ― 恋するつらさ

☆出席報告

委員長　村岡　博君

会員数	２７名
例会出席者	１９名
出席率	７０％
メークアップ者数	４名
修正出席率	８５％
欠席者名	神宮寺, 宮本, 太田, 近藤

☆社会奉仕委員会

委員長　柳田光寛君

「ダメ。ゼッタイ。」国連支援の募金を先だってより皆さまにお願い致しておりましたが、締切りまして、送金しました。￥14,450になりました。ご協力ありがとうございました。

☆お願い

直前会長　吉田康一郎君

15周年記念誌発行について

過去、会長をされた方に「当時を振り返って思う事」というような題の原稿を頂こうと思っておりますが、退会されている方々（徳丸君、伊東君、加藤君、佐野君）の原稿をそれぞれ頼んで頂く方が居られましたら、よろしくお願い致します。

地区大会時の親睦ゴルフと宿泊の件で皆様のご意見をお伺いし、ゴルフは知覧ゴルフカントリークラブ、ゴルフをされない方は知覧観光、宿泊は「かんぽの宿指宿」に決めさせて頂きました。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡

Happy Voice

誕生日の祝い、それに結婚記念日の祝いまで戴き、感謝申し上げます。

お互いに随分年取ってしまったように思います。　老化現象は少しもとどまらず、徐々に徐々に進行しているのを、身をもって感じます。進行を少しでも遅らせようと、頭の訓練にはパソコンに精を出し、運動ではグランドゴルフに出かけています。

山脇　忍
昭代

ありがとうございました。
写真立てをいただきましたので、残りの人生、夫婦仲良くする事を目標に、努力して楽しい生活を心がけ、楽しい写真を撮って飾りたいと思います。

堀口　文代

結婚33周年、当日は秋晴れの佳き日であったことを思い出しました。

池田　仁志
良子

本年も又、誕生祝いを戴きまして、ありがとうございました。健康を気づかいながら、これからも頑張っていこうと思います。

林　厚雄

♡♡♡♡♡♡♡♡♡

☆チベットから日本への私　宋　仁徳　君

こんにちは。

宋　仁徳と申します。今年36歳です。5 年前、中国青海省から、日本に留学に参りました。今は鹿児島大学大学院連合農学研究科・生物生産科学専攻3 年生で、配属大学は宮崎大学です。

今年度、幸い米山奨学生に選ばれまして、西都ロータリークラブにお世話になっております。私のカウンセラーは図師先生です。

今日は、米山奨学生卓話ということで、皆さんの貴重な時間を20分間頂くことになりましたが、何を話せばいいのかわかりませんので、ちょっと困っておりますけれども、私のチベットでの生活、日本での留学生活及び研究テーマの話をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

私の故郷は中国チベット高原の東に位置する青海省です。境内に大きい湖、青海湖があるから名付けられたそうです。
青海省は西から東まで1,000 ㎞で、北から南までは800 ㎞で、総面積は72.12 万平方キロメートルですが、人口は620 万人しかいません。平均海抜は3,000m以上、年間平均気温はﾏｲﾅｽ8.5 ℃で、極端低温はﾏｲﾅｽ50℃まで下がります、中国の長江、黄河、メイゴン川など三つの大きい川の源として、“中華の水塔”とも呼ばれています。チベット高原では“1 年中四季なし、1 日四季が見える”と言われています。それは、1 年を冷季と暖季に分けていますが、1 日中の温度の差が非常に厳しいということです。暖季になると広い草原でたくさんの花が咲き、緑いっぱいの山々で群れ群れの家畜が放牧され、端が見えきれないほどの畑に金色の菜種花から良い匂いがして実にすばらしい景色です。　皆さん、是非チャンスを作って一度いらっしゃって下さい。ご案内します。

チベット高原のおもな産業は畜産業と少しの農業です。食事も羊、ヤクの肉と乳製品を中心で、有名なのは手抓み肉（肉のまま関節から外して、塩だけを調味料にして煮たものであるが、食べる時、片手で肉を持って、片手で刀を持って切りながら食べるもので、きれいに骨から肉をとって食べ、るのは技が必要である）、バターティー（煮た紅茶に塩、ヤクのミルク、バターを入れ、お客さんに必ず出すもの）などがあります。炒めた裸麦の粉（ミルクティーの中にバター、チーズ、砂糖とその粉を入れて混ぜてから手で握って食べるもの）も食べています。　野菜と米を食べられるようになったのはつい最近、十数年のことです。私も米を大量に食べられるようになったのは高校からですが、嫌いでした。　好きになったのは日本に来てからで、日本のお米は粘り気があって美味しいからです。
青海省の東部では農業をやっていますが、1 年に1 作しかできないので、農民たちは非常にのんびりで生活をしています。食べ物も変わって、小麦の粉で作った麺食が中心で、80種類以上も作れるそうです。

お酒を飲むのは、中国では年齢の制限がありませんから、子供から飲ませる事が多いです。私も9 歳から正式に飲み始めたのです。日本と違うのは、日本はお酒を飲むのですが、チベットでは飲ませるのです。省都の西寧市のアルコール消費量は平均で世界中2 番目だそうです。

私は子供の頃から動物が大好きですから青海省畜牧獣医学院に入学しました。
1986年、大学を卒業してから、チベット高原でも最も気候が厳しくて、社会の進化も遅れていると言われる、玉樹チベット自治州の畜牧獣医センターに就職しました。

当時、玉樹州へ行くのはバスで4 日間もかっていました。　　町の海抜は3,776mで、山の放牧地に行ったら、お湯が沸いても、80℃を超えないのです。空気がだいぶ薄いので、人間も家畜も肺活量が高いようです。私の肺活量も6,800cc でしたけれども、宮崎の酸素に恵まれて、帰ったら適応できなくなるかも知れません。
あそこで11年間、野性動物の調査、保護、ヤクと羊の生産に関する研究、普及をやって来ましたが、仕事中に自分の知識の不足を深く感じまして、日本への留学を夢にして、日本語の自学を始めました。しかし、交通や通信があまりにも悪い所でしたから、夢のままでした。

平成9 年10月、やっと、中国政府派遣研究者として来日することができました。
そこからは日本への留学生が少なく、知り合いも、友達もいませんから、来る前はとても不安でした。しかし、宮崎に着いて、たくさんの親切で優しい日本の方々と接し、すぐに慣れました。留学生活においての一番貴重な経験と言えば、沢山のロータリアンの方々と出会ったことです。これは私の人生に大きな影響を与え、一生忘れることのできないことで、かけがえのない経験であります。

最初にロータリアンと出会ったのは、宮崎北ロータリークラブの皆様でした。
それは、自分がより深く幅広い知識を習得するためと、地域の方々から、地域初めての博士として期待されていることのために、博士号が取れるまで頑張っていこうと決心しました。
しかし、皆様もご存じの通り、中国西部のチベット高原は非常に貧しいところで、地元から学費の援助を求めることは不可能です。研究はほとんど農場で行うため、アルバイトもできない現状でした。
経済的に非常に困っているところを、宮崎北ロータリークラブからご高配を頂き、里親縁組の里子として採用され、本当に助かりました。
幸いにも、1 年間、里子として恵まれ、お陰で研究に専念する事ができ、修士論文を無事完成し、鹿児島大学大学院、連合農業研究科、生物生産化学専攻に進学しました
毎月の例会、親睦会などに出席させていただき、色々なお話を聞かせて頂いたことを通じて、人生を学ぶことができ、ロータリアンの皆さんの公平、ご奉仕の心の温かさを感じました。
特に今回は米山奨学生として、経済的な援助をいただくだけでなく、ほかの奨学金に見られない、世話クラブ、カウンセラー制度もありまして、西都ロータリークラブの皆さんから親切にしていただき、皆様との交流が深まり、素晴らしい人達との出会と存じております。

カウンセラーの図師先生、国際交流委員長の杉田さんに、あっちこっち連れて行っていただきました。また、皆さんと出会うチャンスを作ってくださいまして、本当に心から感謝しております。

ロータリアンの皆様から、日本の文化、社会、ロータリーの奉仕の精神などを教えていただき、大変良い勉強になりました。決して、一生忘れることのできない美しい思い出と思います。

次に私の研究について、簡単に説明しいと思います。

背景：ヤクはチベット高原を中心に飼育されている牛属動物であり、青海省およびチベット自治区の標高2,500~5,400 mの高原草原地帯には、およそ1,400 万頭が遊牧あるいは放牧されています。遊牧生産方式の歴史は有史以前に溯ることが出来るほどに長い伝統をもっています。

ヤク（肉、乳、毛、皮、役兼用原始種）はこの地域の遊牧民族の生活に不可欠な存在であります。しかし、最近の飼育家畜頭数の増大は、過放牧状態を引き起こし、草地を荒廃化させる要因となっています。
さらに地球温暖化の影響はチベット高原の乾燥化、砂漠化の促進を助長し、またそれが地球環境に大きな影響を与えはじめています。

こんな生産現状を改善するため、ヤクの個体的生産性を伸ばして、飼育頭数を減らがことが考えられます。
その中、チベット高原の牧草中、Ｓｅ濃度が低い（0.02ppm 以下）ため、家畜の発育繁殖に影響を起こせる必需微量元素セレンに栄養欠乏症もとりあげられました。

要旨：

目的：チベット高原ではヤクを全放牧され、放牧地の土、および牧草中に含まれるセレン濃度が非常に低いと報告されているが、ヤクにおけるセレンの臓器分布、欠乏症状ならびにその基礎的な病態化学的な研究報告は非常に少ない。ヤク臓器のセレン濃度分布から、病態化学的状態を把握し、資料収集が比較的に容易な家畜体毛のセレン濃度と病態化学的なデータの解析らら、採血によらないセレン欠乏症の簡便的早期診断方法の確立を試みる。さらにヤクにセレンの投与による血液中濃度および移行動態を検討し、ヤクの成長および繁殖性に及ぼす影響を検討する。

材料及び方法：

(1)3 頭のヤクを解体して、各臓器中のセレン濃度測定し、分布を検討した。

(2)多個体のヤクの全血と毛中のセレン濃度を測定し、相関を検討した。

(3)7 頭のヤクを対照区（3 頭）、セレン投与区（4 頭）にし、投与区には30mg／100 kgのセレンを注射で投与して、週1 回採血し、6 週間中の全血、血清中セレン濃度の変化を測定した。

結果：(1)各臓器中のセレン濃度では、腎臓中濃度が一番高い値を示し、次は脾臓、腸、心臓、肺、筋肉の順であった。

(2)セレン投与区では無投与区より血液中セレン濃度は1 週間後に急速に増加し、2 週間後に最大となり、6 週間を渡って高い値を示し、血液中でも2 週目まで増加したが、その後、投与前のレベルに低下した。

(3)ヤクの各臓器中のセレン濃度は投与区では無投与区より倍以上の増加が認められたが、腎臓中濃度は変化がなかった。

最後に、米山奨学会のご支援の恩返しとしては、日本にいる間に専門知識をしっかり身につけ、留学の目的を最善に尽くします。　卒業してから、国に帰って、勉強した知識を活かし、地域畜産業振興のためにがんばって行きたいです。
それに日本の方々との交流に基ずいて、チベット高原と日本社会、人民をもっと相互理解させ、地域との友好交流を一層深めるために、私自身は微力ながら、この一生をかけて、使命感と責任感を持ってがんばっていきたいのですが、
皆様の御指導、御鞭撻をお願いします。